

摩耶  
命名式

1168

官房記帳簿

事務部 九 號ノ二

七月三日段

七月八日段

淨寫 校合 發付 月日

主務

普四三七  
七月七日

官房長(印)

課僚

聯帶

明治九年七月七日

主務

大臣 次官 (樺山)

艦政局長(伊藤) 監理係長(吉田)  
會計局長(福澤) 出納係長(八洲)

麻耶艦進水常名式執行法ノ件  
小艦廣造迄於手製表迄、麻耶艦進水常  
名式案ハ八月十日執行、各官等、麻耶艦進水係  
任ノ事、案ハ、各官等、麻耶艦進水係  
任ノ事、案ハ、各官等、麻耶艦進水係

決裁濟

海軍省

御高意也

他本有可招待可相率向モ云々是亦  
造船所ヲ招待セシムル方ニ當テ存案其  
名ノ前書ニ下付申付候旨ニ付一存案  
セテ中 原 也

唐耶龍江武法入費無算

一室古玉圖

由

室八瓶八圖八瓶

壽德堂以上五瓶一人之良費一人之瓶費

室三瓶四圖三瓶

刺任皮田相當四瓶一人古圖一人之瓶費

室五瓶四圖之瓶費

存之瓶之人酒饌料一人之瓶費

室五瓶三瓶五瓶

瓶仕用仕之仕九人酒饌料一人之瓶費

室七瓶之圖四瓶

瓶工人是七瓶之瓶四酒饌料一人之瓶費

室三百之瓶五圖三瓶

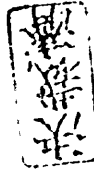
洋酒之瓶五子烟子之瓶五料其他

諸物品借入料運搬機裝飾等也

一室之瓶

在(一)圖

漢軍會



淨駕齋 校令

小印

興川 齋  
八月四日

秘書官 (本宿)

聯帶

主務

主務

大臣

次官

樺山

印務令 安未

奏性官

其官及造船深長代トシテ同課中一名外ニ大

臣秘書官ノ内一名ヲ依遣スル義ト心得ヘシ又指

符負ノ義ハ其官適宜ニ之ヲ定ムヘシ

明治十九年八月四日



摩耶船九

摩耶船名式之件

小野清造船中に於る製造中より摩耶船之儀  
来りし由は上りて見ゆ其儀は  
上りし由の仕度等ありし由に記し  
其儀は名式等所出されし由に記し  
其儀は名式等所出されし由に記し

他亦名式之際招待ヲ要せしハ

其姓名書キテ急下付ありし由に記し

号也

三三三

海軍

昭和七年七月三日 禮政部長 榎森高光

海軍次官 金子善雄 謹記

1175



普三七〇  
八月四日

閱覽濟

次官

摩耶船九六

摩耶船進水期之義有内局

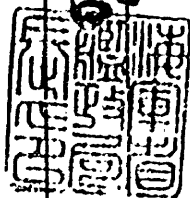
摩耶船之義未二十日進水施行之義小  
野濱造船所より電報越其条は本局に在り

但本船命名式之件一府一郡甲第九号之由以  
上申及下直事委至急何おに指示相成上極陸

至急事

九月四日

艦政部長伊藤高吉



海軍次官子爵藤田資紀殿

海軍省

決裁済

普三八九  
八月十五日

淨駕

校合

與月

日

主務

秘書官

(赤)

聯帶

年月日

主務

大臣

次官

(赤)

秘書官

(赤)

(村上)

案

余名書

本艦明治十八年九月構造ヲ始メ今

船體成ルノ後ク依テ進水式ヲ行ヒ

摩耶艦ト余名ス

1177

明治九年八月十八日

海軍大臣齋藤

海軍省

1178

紙達送年

治明

技術 石川	局		着		局		發		スヘテ電信ヲ頼ミ出ル 申ノハ通信規則ノ通リ 心得ヘキ事
	月	日	第 十 九 號	字 數 一 字	午 時 三 分	月 廿 日	第 一 一 三 號	報	
					届				
					出				

Handwritten notes in the bottom right section:

届  
カ  
リ  
ク  
セ  
ル  
コ  
ト  
ナ  
リ  
シ  
マ  
ス

出  
ソ  
ノ  
コ  
ト  
ナ  
リ  
シ  
マ  
ス

1179





紙達送年明治

技術	局 着			局			發		スヘテ電信ヲ頼ミ出ル モノハ通信規則ノ通り 心得ヘキ事
	月 日	第 号	第 号	午 時 分	第 号	第 号	第 号	報	
<p>只今首尾好く取次り</p> <p>スルイマニ</p> <p>カハカト</p> <p>出</p>									

號三九二并  
八月廿九日

關覽濟

次官

六郎甲家 九號 二二四

摩耶船進水濟之裁陽角

摩耶船進水件 日左記 甲印 為 野溪

造船所 電報 越 未 首 尾 餘 相 濟 事

乙 船 通 電 報 有 之 未 奈 比 敗 及 少 角 也

船政司長伊藤嘉吉代理

十九年八月十九日

船政司長海軍大佐兼航

關覽濟

海軍大佐伊藤嘉吉代理

甲

海軍大佐



ア耶艦進水万事都合宜シカリシガ水際ニ至リ少シク  
故障生シタリ今晚ノ潮ニテ却ス積リナリ

八月十八日午生時三十分神戶發

乙

ア耶艦進水唯今首尾能ク相濟タリ

八月十八日午後七時三十分神戶發

西四三  
一月七日

開覽濟

一耶  
九  
之云

海軍耶艦進水奉名式施行濟

之件御屆

小野濱造船所に於て本月十八日海軍耶艦進水命  
名式施行ノ概況ハ別記之通りニ有之候俟テ本艦明  
細表及進水甚望滑車仕様圖外ニ写真三葉相副  
此段及御屆候也

明治十九年八月廿七日

艦政局長伊藤雋吉



海軍次官子爵樺山資紀殿

次官

樺山

海軍省

十九年八月十八日摩耶艦進水命名式

概況

此日天氣晴朗炎熱殊ニ甚シ未賓ハ夫々設ケノ  
棧敷ニ案内セリ而シテ午前九時山縣所長ハ海  
軍次官代伊藤艦政局長ヲ先導シ設ケノ棧敷へ  
案内シ而シテ進水式準備整頓ヲ開申ス局長式  
臺ニ上ラレ命名書ヲ朗讀セララル畢テ所長ハ笛  
綱ヲ截断スルヤ吾ヤ船身ノ進水臺ヲ下ル其初  
メ進行稍舒ヤトシテ水涯ニ至リ漸次其速力ヲ  
減シ終ニ「プロペラ」ノ中心殆ド水ノ平面ニ達ス

ルニ至リ全ク其進行ヲ止メリ此時艦尾キイル  
ノ進水臺ヲ離レ浮ブ事已ニ貳尺餘ニ及ベリ此  
時九時半ナリ

進水臺ノ止ル唯其陸上速力ノ充分ナラザルト  
船尾体海水ノ抵抗カ依テ其進行ヲ止メ又他  
ニ壹個ノ故障物ナキヲ以テ直ニ水壓起重器并  
滑車等ノ任掛ケヲ以テ水中ニ押出サント欲レ  
ル横材及滑車等ノ数々破壊シ且潮水ノ次第ニ  
退クヲ以テ卒ニ其目的ヲ果ス能ハザリシ  
時已ニ十一時ヲ過ルヲ以テ暫ク休息シ午後二  
時ニ至リ再ビ別圖ノ計畫ヲ施シ午後四時ニ至  
リ全ク其工事ヲ卒レリ此時正ニ干潮ニシテ殆  
ド船体ノ半身ヲ形ハシ海水ノ平面スクルーシ

ヤフトヨリ以下殆ド貳尺餘ニ及ベリ然レ氏計  
畫已ニ充分ニ成レリ故ニ干潮ニ行フモ尚餘力  
アルヲ信シ直ニ此ヲ行フ十分時間ニシテ忽チ  
進水臺ヲ下ルヲ貳拾尺餘再ヒ止ルヲ亦前ノ如  
シ倣テ前キノ計畫ヲ再ヒ施セシニ下ルヲ容易  
ナリ而テ又十五尺餘ニシテ僅カニ船首キイル  
尚進水臺上ニ在ルヲ以テ殆ド百餘人ヲ甲板上  
ニ上ゲ少シク船尾ヲ沈メ直ニ此ヲ水上ニ押出  
セリ時正ニ五時半ナリ翌曉堀内へ曳入レタリ  
以上進水臺ノ止リシ其原因ヲ推究スル未ダ判  
然其理由ヲ發見スル能ハスト雖モ海中進水臺  
上或ハ土砂ヲ流シ摩擦力ヲ生シ且氣候炎熱ノ  
為メ多少豚脂等ノ溶解流出セシテ其原因ノ大

ナ  
ル  
モ  
ノ  
ト  
思  
考  
セ  
リ

海  
軍  
省

1189

進水臺略圖説明書

造船臺ノ勾配ハ壹呎ニ付八分ノ五吋也

進水臺ノ勾配ハ陸上船首ニテ壹呎ニ付八分ノ

六吋船尾ニ至リ次第ニ其傾キヲ増シテ八分ノ

七吋水中ニ入り殆ンド壹吋トナセリ蓋シ當所

ノ海岸ハ風波ノ模様ニ依リ土砂ノ深淺常ナク

是レガ為メ進水臺ニ充分ノ傾キ即チ陸上ニテ

八分ノ七吋ヨリ九壹吋ノ勾配ヲ附シ充分ハガリ

レハ實ニ止ヲ得ガリ次第也

進水臺ノ巾ハ拾七吋半ニシテ長サ百四拾五呎

其平面積凡四百貳拾貳平方尺ニシテ壹平方尺

ニ付千三百四拾四ポンドノ壓力トシ即チ壹吋

平方ニ付九ポンド余ノ駆カトス而シテ陸上進  
水臺ノ長サ水涯迄百八拾六呎水涯ヨリ水中ノ  
極端ニ至リ百三拾七呎此處マテ満潮ノ深サ拾  
呎也

船体ノ重量ハ貳百三拾噸余ニシテ輕荷貳拾噸  
ヲ汽錐室及機械室中ニ積タリ而シテ船首ニハ千  
五百六拾八ポンドノ錨貳個ト壹吋八分ノ一鎖  
六拾尋及アンケルデビット四本ヲ積タリ



摩耶艦明細書

一 船種

砲艦

一 船質

鉄製

一 長

百五拾四呎三吋

一 幅

貳拾六呎拾壹吋

一 深

拾三呎七吋

一 吃水 平均

九呎八吋

一 排水量

六百拾四噸

一 速力

拾海里

一 裝帆種類

スクーナー

一 帆桅數

貳本

一 砲數

前部四挺クルツク砲 門拾五挺クルツク砲 壹門ノルデンワエルト機砲貳門

海軍省

一 機械種類

横置聯成觸面復水罾

一 全数

貳個

一 實馬力

七百

一 漁罾種類

圓形

一 全数

貳個

一 漁力 壹平方尹二付

八拾磅

一 推進罾種類

雙螺旋

一 製造着手

明治十八年九月二十九日

一 進水命名式執行

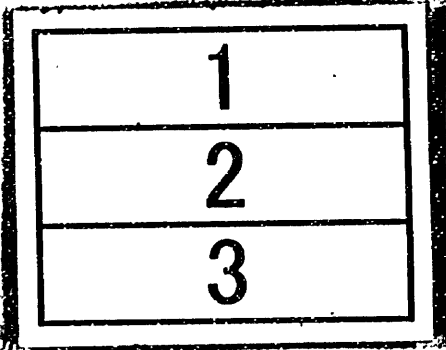
明治十九年八月十八日

寫真寺の上の留書

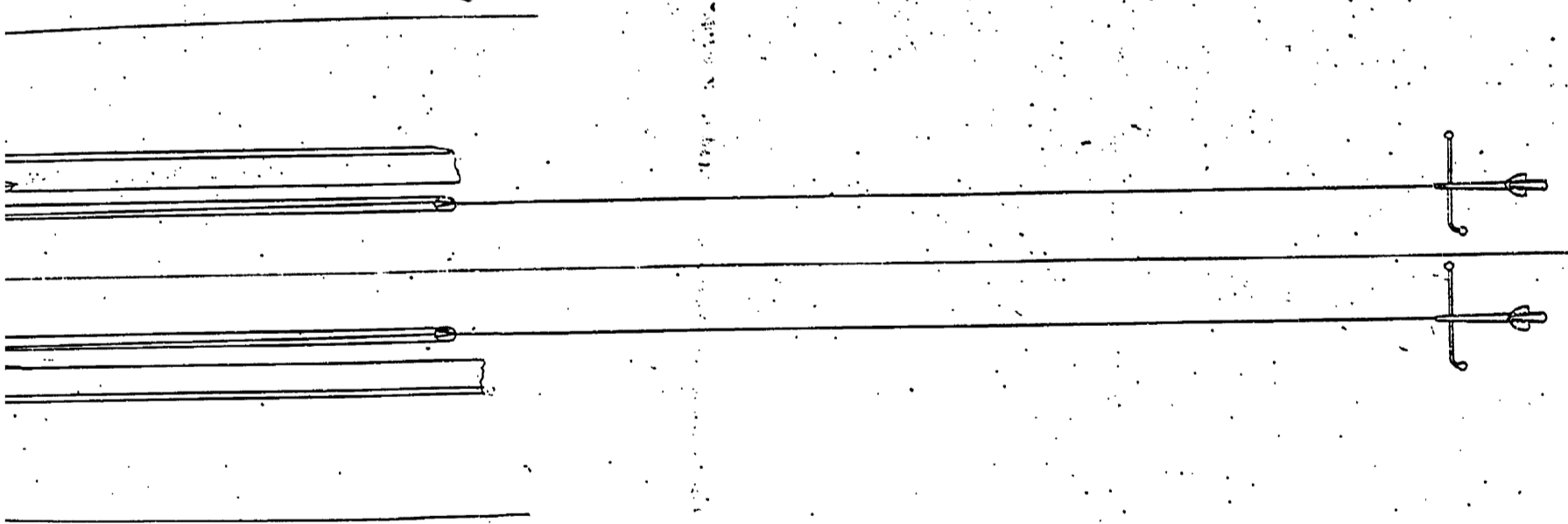
寫真寺

1194

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
<p>(5) (1)</p> <p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

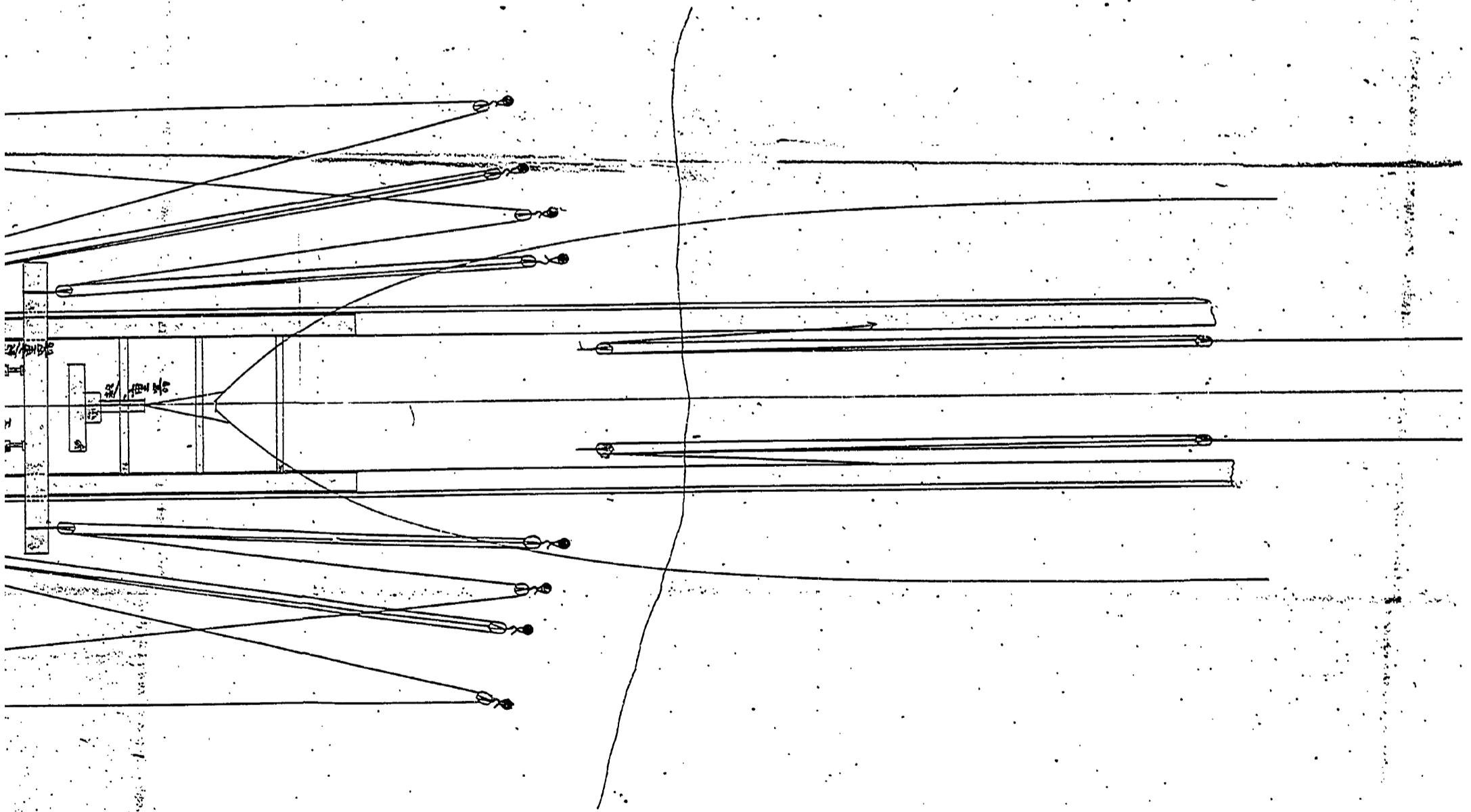
監  
士様圖  
縮圖



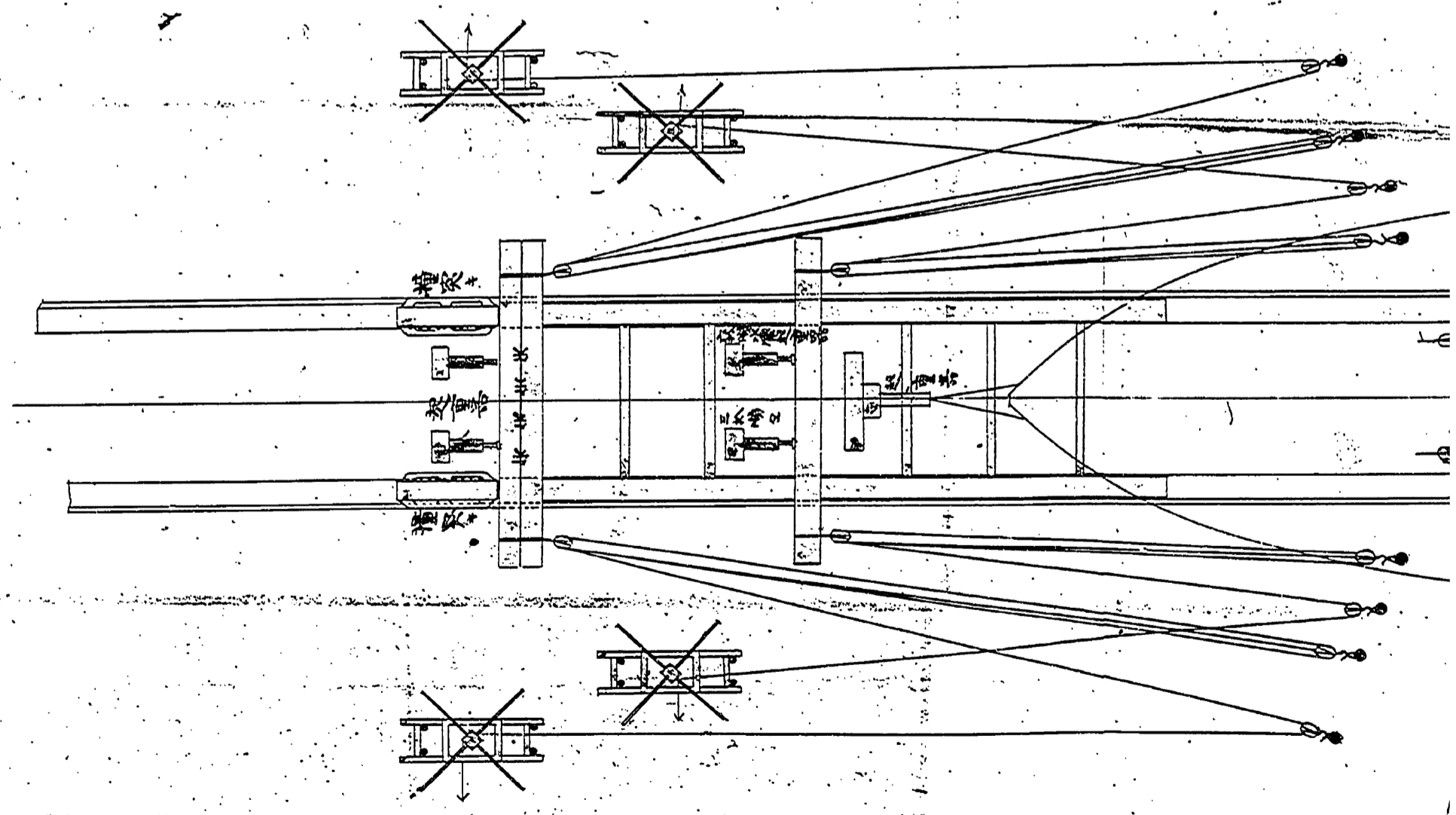
1197 1196 1195

# 摩耶艦 進水滑車仕様圖

九拾六五ノ一縮圖



# 水進



普四一〇三  
八月廿一日

關覽濟

次官

摩耶艦進水命名式景况報告

明治十九年八月十八日小野濱造船所ニ於テ摩耶艦ノ進水式  
 ヲ執行セラル同日午前九時伊藤艦政局長及臨場諸員ハ山  
 縣造船所長ノ先導ニ依リ式場ニ列ス同九時半伊藤艦政局長  
 ハ所長ヨリ進水ノ準備整頓ヲ告クルヲ以テ海軍次官ニ代リ  
 テ命名書ヲ朗讀シ所長留細ヲ截断スルヤ否ヤ船身ハ滑  
 過進行ヲ始ム其進行スルヤ初ヨリ稍徐々タリシカ水際ニ  
 至リ漸次其速カヲ減シ終ニ「プロペラ」ノ中心殆ド水ノ平面  
 ニ達スルトキ全ク進行ヲ止ム此時艦尾キイルノ既ニ進  
 水臺ヲ離レ水ニ浮ブト或尺餘ナリシ斯ノ如ク進水臺ノ  
 停止スルヤ該臺斜面ノ角度充分ナラス隨テ陸上速力ノ充  
 分ナラガルカ為海水ノ之ニ抵抗シ進カヲ止メタルニ職由シ

海軍省



他ニ故障アルヲ見サルヲ以テ直ニ水壓起重器并滑車等ヲ装  
 置シ水中ニ推出クンコトヲ試ムルトモ横材及滑車等ノ数  
 破壊シ且潮水ノ漸ク退クヲ以テ暫ク之ヲ中止スルコトナ  
 レリ午後二時ニ至リ更ニ起重器、錨、及テークル等ヲ以テ計  
 畫ヲ施シ其圖樣ハ艦政局長ヨリ呈出  
 セラル、ヲ以テ今之ヲ詳載セス午後四時詠工事ヲ終フ此  
 時正ニ干潮ニシテ殆ド船体ノ半身ヲ形ハシ海水ノ平面スク  
 ルーシヤフトヨリ以下殆ド貳尺餘ニ及フト雖トモ計畫既  
 ニ成リ干潮ニ行フモ支障ナキヲ以テ直ニ之ヲ行ヒ之ヲ行フ  
 コト十分時間ニシテ忽チ進水臺ヲ下ルコト貳拾尺餘ニ  
 シテ再進行ヲ止ムルコト初ノ如シ然レトモ仍ホ中止セス之ヲ  
 行ヒシニ潮水モ亦漸次満タントスルニ際シ容易ニ十五尺  
 餘ヲ滑下シ僅カニ船首キイル尚進水臺上ニ在ルニ止ルヲ  
 以テ殆ド百餘人ヲ甲板上ニ至ラシメ少シク船尾ヲ沈メ

大ニ進カヲ助ケ程ナク水上ニ進行セシム時正ニ五時半ナリ  
右進水臺ノ停止セシ原因ハ造船所ニ於テモ之ヲ推究シ未ダ  
判然其理由ヲ發見スルコト能ハスト雖モ前述セシ原因ノ外  
海中ニアル進水臺上ニ或ハ玉砂ヲ流シ摩擦力ヲ生シ且氣  
候炎熱ノ爲メ多少豚脂等ノ溶解流出セシコト亦其原  
因ノ大ナルモノ、如シト云フ

右報告候也

但別紙進水臺畧圖説明書及當日進水式執行手續  
書供高覽候也

明治十九年八月二十四日

摩耶艦進水式臨場員

海軍大臣秘書官村上敬次郎(村上)

海軍次官子爵樺山資紀殿

海軍省



進水臺畧圖說明

造船臺ノ勾配ハ壹呎八分ノ五吋也

進水臺ノ勾配ハ陸上船首ニテ壹呎ニ寸八分ノ六吋

船尾ニ至リ次ヲ其傾キヲ増シテ八分ノ七吋水中ニ

入り殆レト壹吋トナセリ蓋シテ所ノ海岸ハ風波ノ

模様ニ依リ土砂ノ深淺常ナリ是レカ為メ進水臺ニ

免分ノ傾キ即ケ陸上ニテ八分ノ七吋ヨリ九吋ノ勾

配ヲ附シ免ハカリシハ突ニ止ヲ得カレ次也

進水臺ノ巾ハ拾七吋半ニテ長サ百四拾五呎其平

面積凡四百貳拾貳平方尺ニシテ壹平方尺ニ寸三

百四拾四ポンドノ壓カトシ即ケ壹吋平方尺九ポンド

余ノ壓カトス而メ陸上進水臺ノ長サ水涯迄百八拾

三呎水涯より水中、極端に至り百三拾七呎此處より  
 満潮、深サ拾呎也  
 船体、重量ハ貳百三拾噸余にシテ輕荷貳拾噸ヲ  
 汽罐室及機械室中に積タリ而シテ船首ニハ千五百  
 三拾<sup>の</sup>ポントノ錨貳個ト是時ハ分一鎖六拾尋及アン  
 ケルカビット四本ヲ積タリ

摩耶艦進水命名式手續書

一當日午前九時海軍次官代理來函ノ節判任官  
以上玄閣前ニ於テ出迎ノ事

但葵任官ハ禮服判任官ハ「フロックコート」トシ

一函長談ケノ席へ按内ノ「

但茶菓ヲ供ス

一函内葵任官以上并ニ雇外國人面謁ノ「

一摩耶艦明細表并ニ費額表及寫真圖函長ヨリ

海軍次官代理へ呈ス

一午前九時半進水式執行ノ旨ヲ函長ヨリ海軍

次官代理ニ告ケ式場ニ先導シ進水式ノ準備

整頓ヲ關申スル「

海軍省

一 式畢テ再ヒ所内ニ於テ休憩ノ下

但茶菓ヲ供ス

一 所内設ケノ室ニ於テ晝餐ノ下

一 退所ノ節見送ハ出迎ニ同シ

臨場員

海軍次官代理艦政局長

海軍少將 伊藤 雋吉

海軍大臣秘書官

海軍主計少監 村上 敬次郎

艦政局機装課長

海軍少佐 田代 郁茂

海軍大臣造船顧問ベルタン

海軍三等技師 櫻井 省三

海軍省



役員

造船所長

海軍二等技師山縣少太郎

製造科長兼主庫

海軍三等技師桐野利邦

造船主幹

海軍四等技師河崎民雄

海軍五等技師内藤政共

旗手

海軍七等技師小西慎三郎

両舷指圖

海軍二等技師柘尾信太郎

御雇英國人ペニ

普六 四一  
五月十日

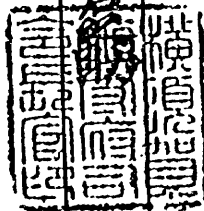
覽覽濟

横鎮三第 二一 二五 號ノ二

別紙進達候也

明治三十年五月九日

横須賀鎮守府司令長官海軍中將子爵中牟田倉助  
海軍大臣伯爵西郷從道殿



次官代理 齋野

海軍省

電報文

今日公試運送船事海分

二十五年正月

摩那能七在自海至塔

植正之在若日古初島海至大持殿

海軍省

著五八六

摩耶那

右其府所管上字ノル

右侍考也ス

明治二十一年一月二十日

海軍大臣

横濱支那領事館日令長官宛

原書ハ廿一年提要所収ニ出ツ

原書ハ廿一年





普〇七  
二月十日

備考

艦長

兵部課  
海軍課  
陸軍課

陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部

横濱第一六二號之三

海軍省

廣耶甲第八號

別紙進達候也

明治二十二年二月八日

横濱鎮守府司令長官海軍中將中牟田良輔  
海軍大臣伯爵西郷從道殿

海軍省  
海軍部

開覽濟

次代理

海軍省

陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部

海軍省

1213

唐書の事

唐書の事  
唐書の事  
唐書の事  
唐書の事  
唐書の事

唐書の事  
唐書の事  
唐書の事  
唐書の事  
唐書の事

唐書の事  
唐書の事  
唐書の事  
唐書の事  
唐書の事

唐書の事



